

概 要

1 気象概況

1月 上旬は気温の高いところが多く、下旬は西日本を中心に低温となった。

上旬は、前半は気圧の谷の通過後に一時寒気が入ったものの冬型の気圧配置は弱く、気温は高めに経過した。7日から8日にかけては日本海の低気圧が北海道付近を急速に発達しながら通過し、北日本で大荒れの天気となった。また、低気圧の通過後には北・東日本中心に寒気が入った。

中旬は、前半は、短い周期で低気圧が通過し、特に14日は動きの遅い低気圧が北海道の東海上で発達したため北日本は大荒れの天気となった。後半は、本州の南岸や北日本を気圧の谷が通過し、東日本の太平洋側でも雪が降った。また、低気圧の通過後には冬型の気圧配置となって、東日本以西に強い寒気が入った。

下旬は、21日から22日にかけて低気圧が通過しながら日本付近を通過し、各地で大荒れの天気となった。低気圧の通過後には強い寒気が入って冬型の気圧配置が続き、西日本を中心に低温・大雪となったが、旬末には西日本から次第に気温が平年を上回るようになった。

2月 上旬は寒気が東日本以西寒気が入り、中旬以降は全国的に高温で経過した。

上旬は、1～2日にかけて深い気圧の谷が通過した後、日本付近は冬型の気圧配置となり寒気が入りやすくなった。寒気は東日本以西に入り西日本と南西諸島は次第に気温が平年を大きく下回るようになった。北日本では寒気の南下は弱かった。

中旬は、北日本の天気は周期的に変化したが、東日本以西は大陸からの高気圧にゆるく覆われる日が多くなった。14日には日本海を低気圧が発達しながら通過して強い南風が吹いた。低気圧の影響を受けやすかった北日本は降水量が平年並みとなったが、東日本太平洋側以西は少雨・多照が顕著であった。

下旬は、天気は概ね数日の周期で変化した。21～22日は低気圧が発達しながら日本付近を通り各地で大荒れの天気となった。低気圧通過後には強い寒気が入って一時冬型の気圧配置となったが長続きせず、25～26日と28～29日は西日本を中心にまとまった降水量となった。

3月 上旬は全国的に気温は低く、上中旬以降は晴れて暖かい日が多かった。

上旬は、前月29日から1日にかけて前線が南下した後、大陸から寒気が入って全国的に気温が下がり、日本海側で大雪となった日があった。6日に発達した低気圧が通過した後も強い寒気が入ったが、旬末には冬型の気圧配置が緩み、気温が上昇した。

中旬は、旬の初めに発達した低気圧が日本の北を通過し、強い南風により全国的に気温が高くなった。その後は、移動性高気圧に覆われ全国的に晴れて気温の高い日が多くなった。17日から18日にかけても発達した低気圧が日本の北を通過し、強い南風により全国的に高温となった。

下旬は、旬の前半は北日本や東・西日本の太平洋側では低気圧や前線の影響で天気がぐずついた。旬の後半は全国的に移動性高気圧に覆われ、晴れて暖かい日が多かった。

4月 天気は周期的に変化し、気温の高い日が多かった。

上旬は、天気は短い周期で変化した。1～2日にかけて日本付近を低気圧が通過し、全国的に雨や雪が降った。4日には本州南岸を低気圧が通過し、東・西日本を中心に雨が降った。7～8日には寒冷前線が通過し、南西諸島を除き雨となった。

中旬は、移動性高気圧に覆われて全国的に晴れて気温の高い日が多かった。13～14日にかけて本州南岸を通過した低気圧や前線の影響で東・西日本太平洋側を中心に雨が降った。また、19日には低気圧が発達しながら日本海を通過し、全国的にまとまった雨が降った。

下旬は、気温の変動が大きかった。22日には北日本を通過した低気圧に向かって南風が吹いたため、東・西日本を中心に気温が高くなった。その後、強い寒気が入り、北・東日本を中心に気温が低くなった。27日には日本付近を発達しながら通過した低気圧や前線の影響で、全国的にまとまった雨が降った。

5月 低気圧や前線の影響により曇りや雨の日が多かった。

上旬は、天気は周期的に変わった。3～4日と9～10日は、低気圧や前線の影響でまとまった雨となった。南西諸島は中頃から前線の影響を受けたが、降水量は少なかった。

中旬は、低気圧や前線の影響で、全国で曇りや雨の日が多かった。19～20日は台風第2号の影響で、前線の活動が活発になり、東・西日本でまとまった雨となった。南西諸島では前半は高気圧に覆われて晴れた日が多かったが、後半は梅雨前線や台風第2号の影響で、天気はぐずついた。

下旬は、北・東日本は旬の中頃に高気圧に覆われ晴れた日もあったが、低気圧や前線の影響で、曇りや雨の日が多かった。西日本は旬の終わりは低気圧や前線の影響で雨が降った。南西諸島では、梅雨前線の影響で曇りや雨の日があったが、高気圧に覆われ晴れる日が多かった。

6月 上旬・下旬は曇りや雨の日が多く、中旬は高気圧に覆われ晴れた所が多かった。

上旬は、前半は移動性高気圧に覆われ晴れた所が多かったが、後半は梅雨前線が北上したため各地で梅雨入りし、曇りや雨の日が多くなった。一方、南西諸島は前線や低気圧、台風の影響で、期間を通して曇りや雨の日が多かった。

中旬は、11日には台風第4号が高知県東部に上陸し西日本を中心に大雨となる等、初めは台風や梅雨前線の影響で曇りや雨の所があったが、その後、梅雨前線は日本の南海上に南下し不活発となって、高気圧に覆われ晴れた所が多かった。

下旬は、21日には台風第6号が高知県室戸市付近に上陸し、南西諸島から東日本にかけて強風や大雨となった。台風通過後は北日本を除き晴れたが、中頃から再び梅雨前線の活動が活発となり、東日本や西日本を中心に曇りや雨の日が多くなった。

7月 高温・少雨・多照傾向で、中旬には梅雨前線の影響により新潟、福井、福島県で豪雨となった。

上旬は、東・西日本では高温・少雨・多照傾向が顕著であった。前半、台風第7号が南西諸島付近を北上し、その後温帯低気圧に変わって日本海を北東進したため、東・西日本では気温が高く経過した。後半は低気圧が日本海から北日本を通過したため、所々で雷を伴った降水があったものの、低気圧に向かって暖かい空気が流れ込んだため、東・西日本では引き続き気温が高い状態が続いた。

中旬は、北からの寒気が入りやすくなり梅雨前線が北陸地方から東北地方で活発化し、新潟、福井、福島県を中心に豪雨が発生して甚大な災害をもたらした。一方、東日本太平洋側から西日本にかけては太平洋高気圧に覆われたため、局地的な雷雨などは発生したものの高温・少雨・多照傾向が続いた。

下旬は、梅雨前線の活動が次第に弱まったため、北陸、東北地方でも梅雨明けした。北日本は高気圧に覆われることが多くなり高温・少雨・多照傾向が顕著となった。月末には台風第10号が日本の南海上を西進したあと四国西部に上陸して中国地方を縦断したため、西日本を中心に大荒れの天気となった。

8月 上旬は台風の通過後は晴れて気温の高いところが多く、下旬は低温となった。

上旬は、前半は、西日本では台風第10号と台風第11号の影響で豪雨となったところがあったものの、その他の地方は前線の影響を受けた北海道を除き晴れ、北日本を中心に気温が高かった。台風の通過後は、太平洋高気圧に覆われ全国的に晴れて気温の高い日が多かったが、大気の状態が不安定となり、短時間に強い雨の降ったところがあった。

中旬は、初め台風第13号の影響で南西諸島で暴風雨となり、中頃には前線が北日本から日本の南海上まで南下し、北・東日本を中心に寒気が入った。その後、台風第15号の影響で前線が北上し南から暖かい湿った空気が入って、西日本や東北・北陸地方を中心に豪雨となった。

下旬は、前線が南下し本州南岸に停滞したため、北日本や東日本では気温が低くなり、前線付近の東日本、西日本の所々で強い雨が降った。その後も、台風第17号の影響で南西諸島で暴風雨となり、旬末には台風第16号の影響で西日本を中心に暴風雨となった。

9月 前線や台風の影響により、ほぼ全国的に曇りや雨の日が多かった。

上旬は、前半は本州上を前線がゆっくり南下し、東・西日本や南西諸島では曇りや雨の日が多く、局地的に大雨となったが、北日本では晴れた日が多かった。その後、大型で強い台風第18号が5日に沖縄本島付近を通過、7日に長崎県に上陸した後、日本海を北上したため、西日本や南西諸島を中心に大雨となり、各地で記録的な暴風となった。

中旬は、天気は数日の周期で変化し、高気圧に覆われ晴れた日が多かったものの、13～14日にかけては低気圧や前線の影響でほぼ全国的に雨が降った。西日本では上空に強い寒気が入って大気の状態が不安定となり局地的な大雨の降る日もあった。南西諸島では中頃まで台風第20号や南からの暖かく湿った空気の影響で曇りや雨の日が多かった。

下旬は、高気圧に覆われ晴れる日もあったが、前線や台風の影響を受けほぼ全国的に曇りや雨の日が多かった。下旬後半には台風第21号が南西諸島に接近、29日に鹿児島県に上陸した後、西日本、東日本、北日本を縦断するコースを取ったため全国的に大雨となった。

10月 台風や秋雨前線の影響を受け、曇りや雨の日が多かった。

上旬は、秋雨前線が日本付近に停滞しやすく曇りや雨のところが多かった。気温は全国的に平年より高かったが、北東寄りの風が入りやすかった東北地方の太平洋側から関東地方にかけてと南西諸島では気温が平年より低くなったところが多かった。また、旬末には台風第22号が伊豆半島付近に上陸したあと北東進したため、東海～東北地方を中心に暴風雨となり降水量も多くなった。

中旬は、前半は東日本の南岸に秋雨前線が停滞し、東北地方の太平洋側から関東地方を中心に曇りや雨の日が多かった。また、中頃に全国的に寒気が入った時期があった。その後は全国的に高気圧に覆われ晴れる日が多くなったが長続きせず、旬末には台風第23号が北上して四国に上陸したため全国的に大荒れの天気になった。

下旬は、北日本では天気は数日の周期で変化した。東日本以西は大陸からの高気圧に覆われ晴れる日が多かったが、後半は台風第24号が南西諸島に接近したあと温帯低気圧にかわって本州南岸を東進するなど太平洋側を中心に曇りや雨の日が多くなった。

11月 上・中旬を中心に高気圧に覆われて晴れた日が多かった。

上旬は、低気圧が周期的に北日本付近を通過したため、北日本では曇りや雨の日が多かった。東日本以西は移動性高気圧に覆われて晴れの日が多かった。

中旬は、天気は数日の周期で変化した。前線や低気圧の影響で太平洋側では降水量が多く、旬の初めに東・西日本太平洋側で大雨になったところがあった。旬の中頃に北日本では、寒気の影響を受けたが一時的だった。南西諸島は高気圧に覆われて晴れた日が多かった。

下旬は、前半は全国的に高気圧に覆われて晴れの日が多かった。26日の寒冷前線の通過後は、北日本中心に寒気が入り、北・東日本日本海側では曇りや雨または雪となったが、他の地方は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。

12月 上・中旬は全国的に気温が高く、下旬は全国的に気温は平年を下回った。

上旬は、冬型の気圧配置は現れず、気温の高い状態が続いた。移動性高気圧に覆われ、日本海側の地方でも晴れる日が多かった。4日～5日にかけて、気圧の谷と台風第27号がもたらした暖湿気流により、西日本から北・東日本の太平洋側にかけての広い範囲で大雨となった。

中旬は、高気圧、低気圧が交互に通じ、上旬に引き続き気温は高かった。北日本では、低気圧の通過に伴いしばしば雨や雪となったが、その他の地方では、低気圧の影響は小さく晴れる日が多かった。

下旬は、中旬末に低気圧が通過した後、冬型の気圧配置になることが多く、全国的に寒気が入るようになった。月末には本州南岸を低気圧が通過し、太平洋側でも降雪・積雪となったほか、通過後、冬型の気圧配置が強まり、日本海側も雪となった。

資料：気象庁『気候系監視報告』から作成した。

表1 梅雨入り・梅雨明けの状況（平成16年）

（梅雨入り）

地 域	本年	平年	前年
沖 縄	5月 5日頃	5月 8日頃	5月 15日頃
奄 美	5月 13日頃	5月 10日頃	5月 13日頃
九州南部	5月 29日頃	5月 29日頃	6月 9日頃
九州北部	5月 29日頃	6月 5日頃	6月 9日頃
四 国	5月 29日頃	6月 4日頃	6月 10日頃
中 国	5月 29日頃	6月 6日頃	6月 10日頃
近 畿	6月 6日頃	6月 6日頃	6月 10日頃
東 海	6月 6日頃	6月 8日頃	6月 10日頃
関東甲信	6月 6日頃	6月 8日頃	6月 10日頃
北 陸	6月 7日頃	6月 10日頃	6月 12日頃
東北南部	6月 7日頃	6月 10日頃	6月 12日頃
東北北部	6月 7日頃	6月 12日頃	6月 12日頃

（梅雨明け）

地 域	本年	平年	前年
沖 縄	6月 23日頃	6月 23日頃	6月 20日頃
奄 美	6月 24日頃	6月 28日頃	6月 27日頃
九州南部	7月 11日頃	7月 13日頃	7月 22日頃
九州北部	7月 11日頃	7月 18日頃	7月 31日頃
四 国	7月 11日頃	7月 17日頃	7月 31日頃
中 国	7月 11日頃	7月 20日頃	7月 31日頃
近 畿	7月 13日頃	7月 19日頃	8月 1日頃
東 海	7月 13日頃	7月 20日頃	7月 31日頃
関東甲信	7月 13日頃	7月 20日頃	8月 2日頃
北 陸	7月 22日頃	7月 22日頃	8月 1日頃
東北南部	7月 22日頃	7月 23日頃	特定せず
東北北部	7月 22日頃	7月 27日頃	特定せず

資料：気象庁資料による。

2 被害概況

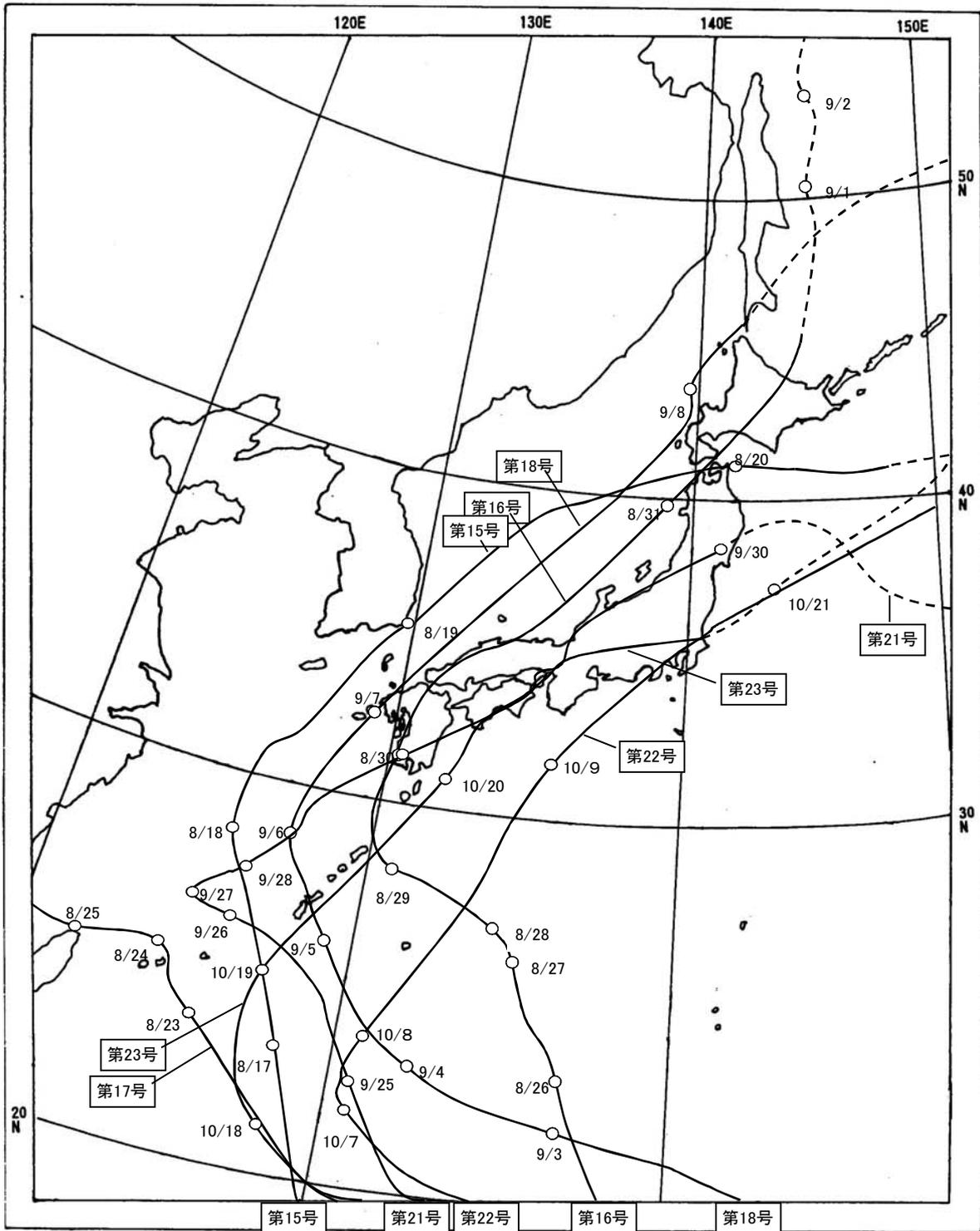
平成16年は、観測史上最多の10個の台風が日本列島に上陸するなど多くの台風が上陸、接近し農作物に甚大な被害が発生した。これらのうち台風第15、16及び18号による災害は、「平成16年8月17日から9月8日までの間の天災」として「天災による被害農林漁業者等に対する資金の融通に関する暫定措置法」(昭和30年法律第136号)及び「激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律」(昭和37年法律第150号)(以下「激甚災害法」という。)が適用され、また、梅雨前線豪雨、台風第10、11号、台風第21号、台風第23号についても激甚災害法が適用された。このほか、「新潟県中越地震」も激甚災害に指定されるなど、大きな被害が多発した。なお、発生した主な被害は表2のとおりである。

表2 平成16年に発生した主要災害種類別被害概要(総数)

単位 { 被害面積 : ha
被害見込金額 : 億円

災害種類名	被害発生時期	被害面積	被害見込金額	主な被害農作物	被害発生地域
台風第4号	6月10日～11日	22 100	13	工芸農作物	徳島、鹿児島、沖縄
台風第6号	6月20日～22日	60 700	62	果樹、野菜	北海道、山形、福島、関東、(茨城、千葉、神奈川、静岡を除く)、北陸(富山を除く)、東海、近畿、中国(鳥取、島根を除く)、四国、宮崎、鹿児島、沖縄
梅雨前線豪雨	7月12日～13日、 7月17日～18日	18 100	41	水陸稲	秋田、山形、福島、新潟、富山、福井
台風第10、11号	7月25日～ 8月5日	23 000	19	水陸稲、野菜	愛知、三重、近畿(大阪を除く)、中国(山口を除く)、四国
台風第15、 16及び18号	8月17日～ 9月8日	911 700	1 286	水陸稲、野菜、 果樹	全国(千葉、東京、神奈川を除く)
台風第21号	9月26日～30日	148 900	73	水陸稲、野菜、 果樹	青森、岩手、秋田、栃木、群馬、新潟、石川、福井、東海、近畿(奈良を除く)、中国(山口を除く)、四国、九州、沖縄
台風第22号	10月9日～10日	6 070	17	野菜	福島、関東(群馬、東京、山梨を除く)、愛知
台風第23号	10月18日～21日	121 500	202	野菜、果樹、 その他農作物	福島、関東(群馬、東京を除く)、北陸、東海、近畿(大阪、奈良を除く)、中国、四国、九州、沖縄

台風第15号～23号の経路図



資料：気象庁資料から作成した。

注：1 経路上の印は9時の位置であり、数字は日付を示す。

2 経路の実線は台風を示し、点線は温帯低気圧の期間を示す。